



病院など向け

平らなキーボード

東レ・ミネベア ふき取りで除菌

東レの新素材を使い川崎和男氏がデザインした平面キーボード

東レとミネベアはパソコン用に、特殊素材を使った平面キーボードを共同生産する。凹凸のある従来のキーボードは除菌液を含ませた布でふいても雑菌が残ってしまうが、平面にすることでふき取りでほぼ除菌でき、感染予防の効果があ

る。東レが開発した新素材をデザイナーの川崎和男氏がキーボードに応用、ミネベアが今月に受注を始め、組み立てる。病院や公共機関での需要を見込む。

新開発のキーボードは本体内に埋め込んである発光ダイオード(LED)を光源にし、表面に文字や記号が浮かび上がる仕組み。タッチパネルに比べて誤入力が少なく、キーボードと同じ感覚で操作できるという。表面に指をはわせ、マウスとして使うこともできる。

技術を用いたリモコンと電卓も売り出す。病院などでは新型インフルエンザの流行をきっかけに、手先が触れる機会の多いキーボードを通じたウイルス感染の可能性が指摘されていた。新しいキーボードは液体を用いた除菌が手軽にできる。飲み物などをこぼしても故障しない。鏡面状の薄いフィルムを80枚重ねた特殊素材は東レが開発。この特殊素材を導光板として利用する技術は川崎氏が発明した。将来的にはテレビの画面などにも応用が可能という。

「病院など向け平らなキーボード 東レ・ミネベア拭き取りで除菌」

日経産業新聞 1面 記事 日本経済新聞社

Kazuo Kawasaki Ph.D.